

## 編 集 後 記

\* 第19号の編集を無事終了した。今回は健筆を揮われた執筆者を含め5名だが、全体としては、会員8名が執筆した賑々しい昨年号と比べてむしろ頁数が増えた。編集子として、執筆者に感謝する次第である。

\* 本号より、西鶴を中心に日本近世文学を専門とされる気鋭の研究者、広嶋進氏があらたに会員に加わってくださったことはことのほか嬉しい。今年度経営学部に加わった氏が、今後本誌において活躍されることを祈り上げる。

\* 毎年申し上げるが、「麒麟」誌が19号まで辿り着くことができたのは、偏に経営学部の構成メンバー全員の御理解のたまものであり、心より御礼申し上げる。それと同時に、御関心のある方は是非入会いただきたい。

\* 第20号に向かって、またあらたな研究・努力がはじまるが、今後とも御執筆および御支援をたまわりたいと存ずる。